

二〇一九年度

二月三日午後入試（第五回）

国語（45分）

注意

- 1 開始の「チャイム」が鳴るまでは、中を見てはいけません。
- 2 答えはすべて解答用紙の解答らんには、はっきり書きなさい。
- 3 終わりの「チャイム」が鳴ったら、とちゅうでもやめなさい。
- 4 問題のページは、5-1 から5-10 まであります。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある場合は、句読点や記号も字数に数えます。)

人はただ 風の中を 迷いながら 歩き続ける

足を肩幅かたはばに開いて床ゆかにしっかりとつけ、声を出す。朝の練習はまだ体が完全には声を出す態勢に入っていないのか、歌っている最中でも、自分たちの声が出ていないのがわかった。

文化祭で歌う『遠い日の歌』の、ソプラノのパート練習。

オルガンで音を取りながら、一度通して歌い、二度目の練習に入る。すると、途中とちゅうで、教室の後ろのドアが開いて、ソプラノのパートリーダーである琴穂ことほが顔を出した。

「ごめん！ 部活の片づけで遅れちゃった。」

① オルガンを囲んでいたソプラノの女子が一斉いっせいに歌うのをやめて、声の方向を見る。琴穂が顔の前で手を合わせて「ごめんごめん」と言いながら駆け寄ってくる。

「本当にごめんね。今どこ歌ってた？」

「——いいよ、もう一度最初からやろう。」

すぐに練習が再開され、琴穂も加わったが、歌い始める前に、マチの後ろで「琴穂ちゃん、いつも遅れてくるよね」という小さな声が聞こえた。自分のことではないけど、ドキンとする。聞いてはいけない気がするのに、耳が勝手に声の続きを聞いてしまう。

「リーダーなのに、やる気あるのかな。」

琴穂は、朝練習を遅刻ちこくすることが多い。その上、放課後も部活を理由に早めに練習を切り上げ、他ほかのみんなを残して先に教室を出て行ってしまふことがよくあった。

歌った後で、それぞれグループごと、自分たちの歌の悪い部分について話し合う。

教室の隅すみから、アルトの女子の声が聞こえてくる。自分たちのソプラノより歌声がまとまっているように聞こえて、このままじゃ合わせて練習したときに音量が負けてしまうのではないか、つられてしまうのではないかと心配だ。アルトのリーダーであるみなみの声が一際ひとわよく聞こえる。

マチがみなみの方を見ていると、琴穂が「ねえねえ」と話しかけてきた。てっきり合唱に関するかどうかと振り向くと、いきなり「聞いてみた？」と聞かれた。

「何を？」

「みなみと恒河つうがのことだよ。夏休み、自由研究いっしょ一緒にやったんでしょ？ あの二人、つきあってるの？」

小声になって関係のない話をしようとする。

その言葉を聞いた途端とたん、ふいに、マチの胸の中でたくさん感情が一度に揺れ動いた。

『リーダーなのに、やる気あるのかな。』

さっき聞いたばかりの声を思い出したら、悲しくなった。本音を言えば、琴穂に真剣しんけんに練習して欲しいのはマチも同じだ。

「ちゃんと練習、しようよ。」

とっさに飛び出した声が我ながら冷たく聞こえて、驚おどろいた。琴穂が「え」と短く声を出す。きよとんとしたその表情を見たら、もう一押しひとお、声が止まらずに出てしまった。

「しっかりとやろうよ。琴穂、遅れてきたのに、関係のない話したり、全然、みんなに悪いと思ってる様子が

ないよ。」

琴穂が目を見開いた。ショックを受けたのだと、表情でわかった。わかった途端、喉元が苦しくなって、それから全身が熱くなる。顔を伏せて、琴穂から離れた。

⑥ ややあって、背後から「わかった」と琴穂の声が答えた。思いがけず素直な声だったせいで、琴穂が沈んだ様子なのが、振り返らなくても伝わってくる。マチが返事をするより早く、「じゃ、もう一度ね」と他の子の声が出て、歌の練習がまた始まってしまふ。

声がうまく出なかった。息が苦しかった。

練習が終わった後で様子を見ると、琴穂は顔を俯けながら席に戻るところだった。⑦ マチの胸を小さな痛みがちくりと刺した。

そのとき、「マチ」と呼びかけられた。さつき、琴穂の遅刻を責めていた子たちだ。

「琴穂のこと、ありがとう。マチみたいなまじめない子が注意してくれると助かるよ。」

こっそりと囁くような声に「ううん」と首を振る。感謝されるようなことは何もない。黙って一人で席に着いた琴穂のことが気がかりだった。

その日は一日中、同じ教室の中で琴穂と気まずい時間を過ごした。

「どうしたの？ マチ、元気ないね。」

「そんなことないよ。」

みなみの声にも首を振る。誰にも、これ以上何も言いたくなかった。

一人で帰る前に、図書室に本を返しに寄る。本と紙の匂いに包まれた大好きな場所に入った途端、⑧ 全身から力が抜けて、泣き出しそうな気持ちになった。明日から、琴穂とどう顔を合わせればいいかわからなかった。合唱練習は明日もあるのに。

そのとき、図書室の奥の壁沿いに並んだ百科事典が目にとまった。見えない誰かと続けている文通。次にメモを残すのはマチの番だった。

本を手に取り、いつもより長く、手紙を書いた。

⑨ 『真面目だ、いい子だ、と言われると、ほめられているはずなのに、なんだか苦しくなる。はっきり言えないことを優しいって言ってくれる人もいるけど、わたしは、本当は自分が人に嫌われたくないからそうしてるんだと思う。わたしは臆病です。』

次の日の朝練に、琴穂は遅刻もせず、時間より早く現れた。

何事もなかったかのように「さあ、練習するよー」と明るいい声を出してみんなの前に立つ。マチにも「マチ、おはよう」と普段通り挨拶してくれた。

その声にほっとして、マチも「おはよう」と返事をする。けれど、⑩ 琴穂が無理をしているんじゃないかと、やっぱりまだ気になった。

⑪ その日の放課後、図書室に急いで、ドキドキしながら本を開いた。昨日残した自分の長い手紙に、相手があるような返事を残しているかを考えると、待ち遠しいような、怖いような気持ちだった。

本を開くと、返事はもう来ていた。いつもより長い。

『断れない、はっきり言えない人は、誰かが傷つくのが嫌で、人の傷まで自分で背負ってしまう強い人だと思ふ。がんばって。』

——がんばって。

^⑫ 読んだ瞬間、胸がぐっと熱くなった。

手紙を抜き取って、本を元に戻す。何度も何度も読んでから、お守りのように、そっと胸に当てた。便せんの内側が、あたたかく熱を持っているように感じた。

翌日の練習で、マチは思いきって、琴穂に自分の方から「おはよう」と挨拶してみた。練習用のテープのセツトをしていた琴穂が、驚いたように一瞬黙ってから、マチの顔を見て、それから、一呼吸ついて、微笑んだ。

「おはよう、マチ。がんばろうね。」

「うん。——テープ、借りてきてくれたの？ ありがとう。」

「一応、リーダーだから。」

^⑬ 照れくさそうに、琴穂がマチからぱっと目をそらした。

その日から、ソプラノは、みんなだんだんと声が出るようになっていった。

文化祭当日の合唱は、今までの練習の中でも声が一番伸びやかに重なって聞こえた。

アルトや、男子の声にだって負けていない。横の琴穂とも声がひとつになっている手ごたえがあった。

歌いながら、気づくことがあった。

みなみたちのアルトと違って、マチたちのソプラノはパートリーダーがなかなか決まらなかった。そのときに手を挙げて、リーダーになったのは琴穂だ。深く考えなかったけど、あれは、他に誰も立候補がなく練習が進まないのを見て、琴穂がみんなが嫌がる役を進んで引き受けてくれたのではないだろうか。

^⑭ だとすれば、それはとても勇気があることだと思ふ。

人はただ 風の中を 祈りながら 歩き続ける

歌詞を噛みしめるように声を出しながら、マチは「ありがとう」と思った。琴穂にも、手紙をくれた見えない誰かにも。

歌い終えた後で、琴穂から「やったね」と声をかけられた。他の学年の生徒からの拍手の大きさが、合唱の成功を物語って聞こえた。「うん」と頷き、お互いに手に拳を握ってガッツポーズを作る。

教室に戻るとき、みなみからも「マチ、がんばったね」と声をかけられた。

「ソプラノの子たちから聞いたけど、練習をまとめるきっかけを作ったのはマチだったんだってね。偉い！」

「私、何もしてないよ。それを言うなら、みなみちゃんだってアルトをしっかりとめて、私なんかよりずっと、普段から偉いよ。」

「ううん。マチはいつも、あんまりはつきり人を注意したりしないし、私、マチは人が傷つくのが嫌な優しい子だと思つてたんだ。そういう優しい人が誰かを注意するのって、私が普段やってるのより何倍も勇気があると思ふ。マチはすごいよ。」

「そんなこと……。」

恥ずかしくて顔を伏せ、感激しながら俯いたそのときだった。みなみの言葉の一部分が、マチの心の柔らかな場所にふっと入りこんできた。

あつと思いがたる。

みなみの今の言葉は、マチがもらった図書室のあのメモの言葉とどこか似ている。

普段からはっきり意見が言えないこと。誰かが傷つくのが嫌なこと。マチを励ますような力強い言葉と、考え方だ。

言葉が出てこなかった。そのままじつと、みなみの顔を見つめる。みなみはもう、前を向いてしまっている。

(辻村深月『サクラ咲く』より)

問一 —— 線①「オルガンを囲んでいたソプラノの女子が一斉に歌うのをやめて、声の方向を見る。」とありますが、「ソプラノの女子」たちは、誰の方向を見たのですか。文中からぬき出して答えなさい。

問二 —— 線②「琴穂ちゃん、いつも遅れてくるよね」とありますが、この発言をしたソプラノの女子は琴穂のことをどのように思っていると考えられますか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 責任感があり、練習に遅れてしまってもがんばってくれていると思っている。
- イ いつも部活でいそがしく、練習に参加できなくても仕方がないと思っている。
- ウ 合唱の練習に積極的に参加せず、まじめに取り組む気がないと思っている。
- エ いくら注意をしても直らず、これ以上何を言っても仕方がないと思っている。

問三 —— 線③「ふいに、マチの胸の中でたくさん感情が一度に揺れ動いた。」とありますが、「たくさん感情」の内容としてあてはまらないものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア ソプラノのメンバーの気持ちがあまとまっていないことを悲しんでいる。
- イ みなみと恒河が付き合っていることを初めて知って落ち込んでいる。
- ウ アルトと歌を合わせたときにうまくいかないのではないかとあせっている。
- エ リーダーとしての自覚に欠けている琴穂の行動をはがゆく思っている。

問四 —— 線④「もう一押し、声が止まらずに出ってしまった。」とありますが、「声が止まらずに出ってしまった」のはなぜだと考えられますか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 注意しても琴穂に分かってもらえていない気がして、思いがおさえきれなくなりましたから。
- イ 深く考えこんでしまった琴穂を見て、さらに問いつめることで反省させようとしたから。
- ウ 自分の発した言葉があまりにもひどかったと思い、一刻も早く弁解したくなったから。
- エ 言っても聞いてくれない琴穂に対して、ていねいに説明することで分かってもらおうとしたから。

問五 ——線⑤「顔を伏せて、琴穂から離れた。」とありますが、マチはなぜこのような行動をとったと考えられますか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 琴穂が怒っていることがわかり、また顔を合わせるとけんかしてしまうと思ったから。

イ 衝撃を受けた琴穂の顔を見ていられず、いたたまれない気持ちになったから。

ウ 琴穂のことが嫌いになり、顔も見たくないし口もききたくないと思ったから。

エ なにを言っても理解してくれない琴穂に、これ以上注意するのをあきらめたから。

問六 ——線⑥「ややあって、背後から『わかった』と琴穂の声が答えた。」とありますが、このときの琴穂の様子を説明したものとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 気軽に話せる友達だと思っていたマチから予想外にも自分の行動を注意されて落ちこんでいる。

イ 注意を受けたけれども、マチはやさしいのでそれほど怒ってはいないと開き直っている。

ウ ソプラノのリーダーである自分に注意してきたことに対して、なまいきだとおこっている。

エ いつもは注意をしないマチにみんなの前でしかられてしまい、はずかしさをがまんしている。

問七 ——線⑦「マチの胸を小さな痛みがちくりと刺した。」とありますが、「小さな痛み」とはどのようなことに対する痛みですか。解答らんの「マチがくこと。」にあてはまるように十五字以内で答えなさい。

問八 ——線⑧「全身から力が抜けて、泣き出しそうな気持ちになった。」とありますが、「泣き出しそうな気持ちになった。」のはなぜですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア お気に入りの場所に入ったことではりつめていた心がゆるみ、おさえていた感情があふれてきたから。

イ すぐけんかになってしまう琴穂との関係がいやになって、合唱の練習にも参加しなくなってしまうことから。

ウ 人の少ない図書室では周りの目を気にする必要がないため、いつもの自分にもどることができたから。

エ 合唱練習で琴穂とうまくいかなくなって以来、琴穂にさけられている気がして落ちこんでしまったから。

問九 ——線⑨「わたしは臆病おくびょうです。」とありますが、マチは自分のどのようなところを「臆病」だと感じているのですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 練習をこつこつと積み重ねることが出来ず、自分で決めた目標からいつも途中とちゅうで逃げ出してしま
うところ。

イ 周りの人に自分がどう思われるのかを気にしてしまうあまり、自分の意見をちゃんと伝えること
ができないところ。

ウ 自分の行動に自信がないために、周りの人にほめられても自分の長所を受け入れられず否定して
しまうところ。

エ けんかになつてしまうのがこわくてクラスメイトに話しかけることが出来ず、いつまでも仲良く
なれないところ。

問十 ——線⑩「琴穂ことほが無理をしているんじゃないか」とありますが、「琴穂が無理をしている」とはどう
いうことですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア マチから嫌きらわれていると気づいたのに、リーダーとして責任を果たそうとしているということ。

イ 合唱が得意ではないのに、友達であるマチのためにがんばって練習に参加しているということ。

ウ 本当は部活に行きたいのに、マチに嫌われたくなくて合唱の練習に参加しているということ。

エ マチに注意されたことを気にしているのに、無理に明るくふるまおうとしているということ。

問十一 ——線⑪「ドキドキしながら本を開いた。」の説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一
つ選び、その記号を答えなさい。

ア 手紙にどんなことが書かれているのかを早く知りたいと思う一方、何が書いてあるのか不安に
思っている。

イ 文通の相手が誰だれであるのか今まで全く分からなかったが、今日こそ分かるのではないかと期待し
ている。

ウ 自分の書いた手紙が他人に読まれることで、本心がみんなにばらされてしまうのではないかとお
びえている。

エ 友達にも本心を打ち明けたことがなかったのに、正体の分からない人に悩みを相談してしまった
ことを後悔こうかいしている。

問十一 — 線⑫「読んだ瞬間、胸がぐつと熱くなった。」とありますが、なぜ「ぐつと熱くなった」のですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア クラスメイトからきらわれているのではないかと心配していたが、返事を読んでむしろ感謝されていると分かって安心したから。

イ 周りのことを気にしすぎて思ってもいないことを言ってしまう自分に落ちこんでいたが、責任感の強い人だとはげまされて気持ちが軽くなったから。

ウ 今まで自分の性格を否定的に考えていたが、自分の性格について違うとらえ方が返事に書いてあり勇気づけられたから。

エ 自分の気持ちをだれにも分かってもらえずさびしく思っていたが、やっと返事を書いてくれる人が現れてうれしく思ったから。

問十二 — 線⑬「その日から、ソプラノは、みんなだんだんと声が出るようになっていった。」とありますが、この場面から読み取れる内容として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 自分たちが練習の雰囲気（ふんいき）を悪くしているということ（こと）を琴穂（ことほ）とマチが反省し、ソプラノの雰囲気も良くなっていった。

イ マチは琴穂をリーダーとして頼（たよ）ることをあきらめ、ソプラノの女子も自分たちの力で練習するようになっていった。

ウ マチはリーダーとしてソプラノをひっぱっていく力があることを琴穂がみとめ、ソプラノもマチを中心にまとまっていった。

エ マチが自分から琴穂に挨拶（あいさつ）をしたことで二人の気まずさが消え、琴穂を中心にソプラノ全体の気持ちもまとまっていった。

問十三 — 線⑭「それはとても勇気があることだと思う。」とありますが、「それ」とはどのようなことをさしますか。解答（かいだ）らん「こと。」につながるように文中から二十字以内でぬき出し、その初めと終わりの三字を答えなさい。

問十四 — 線⑮「マチはすごいよ。」とありますが、みなみがマチを「すごい」と思うのはなぜですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア みなみの注意の仕方をまねしながら見事にソプラノの練習をまとめることができたから。

イ 他人の気持ちを考えられる優しい人が注意するのは勇気があることだとわかるから。

ウ 普段（ふだん）は目立たないマチがとつぜんきらわれることをおそれ目立つようになったから。

エ みなみとは違い周りからきらわれることなくリーダーシップを発揮（はつぱん）することができているから。

問六 本文の表現についての説明として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えな
よ。

ア 「ドキンとする」「ドキドキしながら」の二か所だけにカタカナを使うことで、マチの気持ちの変化の大きさを強調している。

イ 「――」や「……」を多く使い、登場人物の会話の内容を省略したりぼかしたりすることで、物語の展開を早めて読者をあきさせないようにしている。

ウ マチの手紙が「です・ます」調で書かれているのに対し、マチの会話をくだけた言葉づかいにすることで、マチの裏表のある性格が表現されている。

エ 作品冒頭と後半に出てくる「迷いながら」「祈りながら」という歌詞の一部は、その場面ごとの登場人物たちの心情と重ねられている。

二 次の漢字と言葉に関する問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の——線部のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

- ① 子どものタンジュンな心。
- ② あの場面はアツカンだった。
- ③ 船の通る道をカイロという。
- ④ 一心フランに本を読む。
- ⑤ 親のツトめをはたす。

問二 次の①～⑤の——線部の漢字の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

- ① 悪筆を直す。
- ② 地味な色の洋服。
- ③ 家名をつぐ。
- ④ 空を切る。
- ⑤ 世情にうとい人。

問三 次の①～③のことわざの□にあてはまる漢字一字を答えなさい。また、④・⑤のことわざの意味として最も適当なものを、後のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、その記号を答えなさい。

- ① □の祭り (間に合わないこと。手おくれであること。)
- ② □の上にも三年 (じつと我慢していけば、良い結果が得られること。)
- ③ 雨降って□固まる (もめごとがあつた後、かえって前よりも良い状態になること。)
- ④ 船頭多くして船山に上る

- ア 指示する人ばかりだと、物事がまとまらないということ。
イ 指示する人が多くいた方が、物事ははやく進むということ。
ウ 船の前方に人がかたまと、バランスがくずれてよくないということ。
エ 船に人が多く集まれば集まるほど、活気のある船になるということ。

⑤ 情けは人のためならず

- ア 人に親切にしてあまやかすのは、その人のためにはならないということ。
イ 人に親切にしておけば、いつかは自分に良いことが返ってくるということ。
ウ 人に親切にした時に、相手がうれしいかどうかは相手の心によるということ。
エ 人に親切にして見返りを求めることは、まちがっているということ。

問四 次の①～③の文の漢字にはあやまりがあります。例にならってあやまりの部分あげ、正しく書き直して答えなさい。

例 成積があがる

解答 (誤)積 ↓ (正)績

- ① 生徒の意見を反栄させる。
- ② 自確をもった行動を要求する。
- ③ 人事の移動を発表する。

問五 「めったに」という言葉を使い、主語と述語のある一つの文を作りなさい。